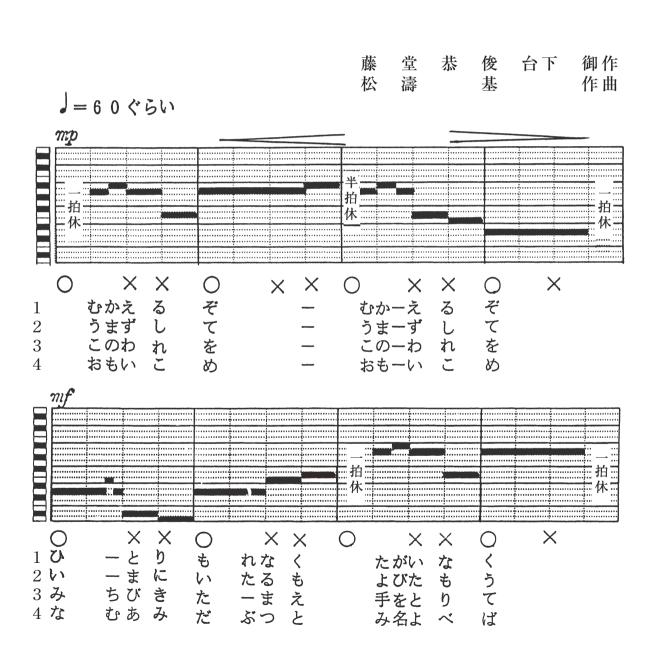
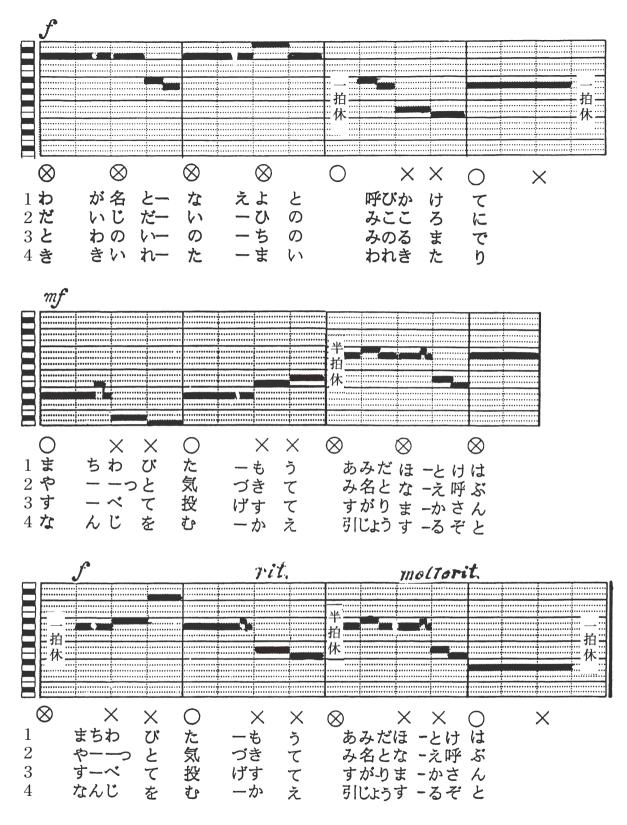
引 接 御 和 讃





(ポイント注意と歌詞は21ページ)

明接和讚

藤 堂 恭 俊 台下 御作

- 1 迎えるぞ 迎えるぞ 一人漏れなく たがいなく 我が名となえよと 呼びかけて 待ちわびたもう 阿弥陀ほとけは 待ちわびたもう 阿弥陀ほとけは
- 2 倦まずして 倦まずして 今にいたるも 呼びたもう 大慈大悲の みこころに やっと気づきて み名となえ呼ぶ やっと気づきて み名となえ呼ぶ
- 3 この我れを この我れを 導きたまえ 手をとりて とわのいのちの 実るまで すべて投げすて すがりまかさん すべて投げすて すがりまかさん
- 4 おもい込め おもい込め 南無阿弥陀仏と み名呼べば 聞き入れたまい 我れ来たり 汝を迎え 引接するぞと 汝を迎え 引接するぞと

ポイント注意 • 唱える前に、歌詞をじっくり音読しましょう。藤堂大僧正の切々としたお論しが篭められております。

● この曲に限らず、お唱えでは、息継ぎ(ブレス)が大切なのです。お唱えは器 楽のメロディ表現と違って、ことばの区切りも大切です。

例えば 1番では「我が名・となえよ」。2番の「み名・となえ呼ぶ」。4 番では「み名・呼べば」のような箇所です。ことばを区切らないと「み名」が 「皆」のように表現されてしまいますから。

(図表は18ページ)